

## ●本報告書をお読みになる皆さまへ・・・・・・・・・・・・・・・・

わたしたちは、大学の研究所ですが、誰もが住みやすい地域創りにわたしたちも貢献したい～と地域向けサービスや支援活動を模索しています。

昨年度以降、港区内の子育てに関わるさまざまな方々との出会いがあり、港区にも多くの子育てまっ最中の方たち同士の子育て支援活動が行われていることを知りました。

わたしたちの研究所には、プレイルームがあります。出会いのあった地域の子育て中の方々のグループ活動のために、その部屋を提供しはじめています。グループの皆さんからは、都心での子育て事情や、子育て中の方々が活動する上での悩みを聴かせてもらったりしています。

### 今回、これまでに出会った子育てまっ最中の方たちと、市民講座を企画しました。

当所とすでにつながりのあったお母さんたちと、2005年10月より3回の「作戦会議」を開きました。そのなかで「子育て当事者の立場から地域に向かって発信しよう！」という今回の講座の主旨や方向性を打ち出すとともに、地域の他のグループともつながりたい、という思いが共通していることに気づきました。

そこで、近隣で活動している子育てグループとの出会いを求めて地域を歩き、最終的には9つのグループとのつながりができ、今回の市民講座で一緒に発信してくれることになりました。具体的には、実際に発信する内容や講座の流れを考えるため、4回にわたる「企画会議」を開催し、毎回各グループからたくさんの方にご参加いただきました。

ラウンドミーティング当日（2006年3月12日）は、まず子育てまっ最中の方たち自身が取り組む「子育てグループ活動」を紹介しました。

また、近隣の他区ではどんな活動が展開されているかを学ぶため、おとなり品川で活動する「ふれあいの家ーおばちゃんち」の活動を紹介してもらいました。

そして、都心での子育てを取り巻く現状やニーズを当事者の声として発信しました。

『地域のみなさまへ ～ママたちからの発信！～』と題した資料は、企画会議のなかで語られた「子育てママたちの声」と、ラウンドミーティング当日に発信された発言内容をあわせた資料です。

本報告書は、上記のラウンドミーティング当日の内容をおさめています。そのほか、ラウンドミーティングの企画過程や当日に出会いのあった子育てグループ等の活動紹介、企画を応援し続けた学生ボランティアの活動成果のひとつである「子育てグループマップ」や学生たちの活動後の感想レポートも掲載しています。

孤立しない子育て、それをささえる地域創りやネットワークについて、当事者も支援者も地域のひとと一緒に考えていく、その第一歩として、本報告書に収められたさまざまな発信を受け止めていただければ幸いです。そして、お読みになっている皆さんと、誰もが暮らしやすい地域創りを一緒に始めることができたら…とてもうれしく思います。

## ◆はじめに～(ラウンドミーティング当日の開会挨拶より)

皆さん、こんにちは。

明治学院大学には、学部ごとにいくつかの研究所がありますが、わが社会学部には付属研究所があります。社会学部は、今年度40周年を迎えた学部ですが、それ以前、文学部だった時代から研究所には、相談部門という部門がありました。ちょうどこの会場の場所、大学の一番奥、本当に小さな建物だったのですが、40年以上前から、地域の子育て相談の相談室があり、それがわれわれ相談部のスタートラインです。

今そのスタートラインから40年以上経て、21世紀を迎え、社会学部の相談部門は今後、何をすべき所なのかということ学部で話し合いました。ミクロに個別的な相談をすることもとても大事だけれども、より港区という地域に目を向けて、地域でいろいろとミクロな活動をしている市民をサポートしたり一緒に活動する、そこに学生や教員が巻き込まれていく、そんな相談活動も新しい相談活動として大事だということ話し合いました。

そこで相談研究部門では、次ページ以降に掲載したとおり、これまでにいくつかの市民講座を企画しながら、港区にはいったいどんな魅力的な活動をされている団体があるのかを、手探りで探したり、講座を企画したりとこの4年間ぐらいを過ごしてきました。

相談部門のスタッフ(ソーシャルワーカー2名)たちは、この数年港区の子育て支援に着目して、魅力的な子育て支援のグループの人たちとつながりを持つと努力してきました。一緒に港区の子育てについての勉強会を企画したり、何人かの方々とワークショップをしてきました。

港区は都心ですから人の出入りが激しいところから、子育てサークルがあっても、お互いのやっていることがなかなか見えなかったり、サークル同士でもっとつながりたいのになかなかつながれない、また異世代の人たちとのつながりもきっと必要だろう、というような、いくつかの課題も見えてきました。

そこで、今回は、今までの成果を基に、港区の子育てグループの皆さんとつながっていくための、第1回目の社会学部付属研究所相談部門主催の、港区の子育て支援の市民ネットワークの会を開催させていただくことになりました。今日をきっかけに、大学という場所で、また地域のいろいろな場所で、皆さんと多様なかたちで港区の子育てネットワークのお話し合いやつながりができたらいいなと思います。今日はスタートラインですので、ぜひそれぞれの活動をお互いが知るところから始めて、次につなげていきたいと考えています。今日はどうぞよろしくお願いします。

明治学院大学社会学部付属研究所 相談・研究部門 主任 茨木尚子

## ◆社会学部付属研究所～これまでの地域創りに関わる活動～



明治学院大学社会学部付属研究所は、本学社会学部の研究の砦であると同時に、地域に開かれた相談機関としての機能を持ち、福祉相談活動（個人やセルフヘルプグループ、施設・NPO）や講座・研修活動（市民や社会福祉実践家向け）に取り組む研究所です。

2000年度より地域の福祉課題への土壌づくりをめざし、またボランティアな活動を推進する目的で、市民講座を開催しています。

### ●2002年度 基調講演とパネルディスカッション

#### 「都市型ボランティア活動とは？～企業の社会貢献と市民参加～」開催

都市ならではの課題：単身世帯の増加、高齢化そして孤立化…。それに対し、地縁・血縁型の長期定住者、新たな出会いのなかで活動する住民、昼間の人口割合が高いという特徴ならではの在勤・在学者の存在、NPO型活動の占める割合の高さ、コミュニティビジネスの参加など、多様な人々の取り組みが展開され、その多様さこそ都市におけるボランティアな活動の特徴である。課題として、ネットワークを創ること、顔の見える関係を創ることが重要。そのための中間支援組織の役割はどうあったらよいか？との課題も示された。そして、NPOと企業・行政との協働はどうしたらよいか、そもそもボランティア活動の本質とは何か？との論点も出た。

#### ○基調講演「都市型ボランティア活動とは？～企業の社会貢献と市民参加～」

講師：山崎 美貴子（明治学院大学教授／東京ボランティア・市民活動センター所長）

#### ○パネルディスカッション

パネリスト：

日塔 憲夫（松下電器産業株式会社コーポレートコミュニケーション本部社会文化グループ）

林川 玲子（ビバ日本語教室代表）

柳川 素美代（特定非営利活動法人生活福祉ネットワーク理事長）

コーディネーター：山崎 美貴子

● 2003年度 : 都市型ボランティア活動に関する研究会・  
研究会企画による「都市型ボランティア活動フォーラム  
～実践報告と今後のゆくえ～」開催

昨年度の参加者から希望が寄せられ、都市ならではのボランティア活動について討議しようという研究会をもった。研究会では、都市に暮らす生活者たちの諸課題解決に取り組む活動者メンバーの実践を振り返りながら、実践の中から都市型ボランティア活動の本質に迫ろうとした。そこでは、都市における数々のコミュニティの課題が語られた。ボランティア活動は都市におけるコミュニティ復活の手段では？という意見もあった。これらの討議のまとめの意味で、公開型フォーラムを行い、討議で出された以下の活動上の課題について、グループディスカッションを行った。 <テーマ>

- 1 自律した活動者となるために、活動の育ちを応援する基盤や仕組みづくり
- 2 行政・企業・NPO・ボランティアなどのネットワークをどう発展させるか？
- 3 地域住民のネットワークをどう創るか？ボランタリーな活動へどう巻き込むか？

○テーマに関するプレゼンテーション

テーマ1 特定非営利活動法人アンテナフランス 中津川 昌弘

特定非営利活動法人生活福祉ネットワーク 柳川素美代

テーマ2 ビバ日本語教室 林川 玲子、NPO/NGO 環境団体エコスクラブ 山村 徳護

テーマ3 港区民生・児童委員協議会三田地区会長 古橋 義弘

港区赤十字奉仕団 岩間 貞子

○フォーラムのまとめ

講師（コメンテーター）：山崎 美貴子

（明治学院大学名誉教授／神奈川県立保健福祉大学教授／東京ボランティア・市民活動センター所長）



● 2004年度7月 「都市型ボランティア活動大特集  
～リンクしよう！明学&港区のNPO～」開催

2003年度研究会のNPO等メンバーから「ボランティアをもっと募集したい、地域の人をもっと巻き込みたい」との声が多数あった。そこで、地域の皆さんと本学学生を対象に、港区内のNPOの『ボランティア活動プログラム』を紹介しよう～という企画を開催した。多様な10のNPOが参加した。

○ミニ講義「NPOでボランティア活動をするということ」

講師：小原 宗一（日本ボランティアコーディネーター協会運営委員長/本学卒業生）

○リレー活動紹介 参加NPO

人工呼吸器をつけた子の親の会東京支部 特定非営利活動法人エコスクラブ  
NPO 視覚障害者支援ネットワーク Strawberry Field みなと工房  
連合東京ボランティアサポートチーム 特定非営利活動法人生活福祉ネットワーク  
特定非営利活動法人日本アロマテラピー活動サポートセンター クリエイティブ・アート実行委員会  
認定特定非営利活動法人JHP・学校をつくる会 特定非営利活動法人日本ゆび編み協会

○NPOとの準備講座「効果的なボランティア募集とは？-ボランティアマネジメント入門-」

講師：妻鹿 ふみ子（吉備国際大学助教授）

● 2004年度3月 クリエイティブ・アート実行委員会（港区南青山）共催  
「新しい出会いがコミュニティを創る」 開催

NPO紹介企画で出会ったクリエイティブアート実行委員会は、都市型ボランティア活動に関わる研究会でくりかえし討議された「人々のつながりやコミュニティ」とアートをテーマにしている。港区という町の歴史を大事にしながら、新しいつながり創りをするNPOとの出会いから、都市に暮らす私たちは、人々のつながりやコミュニティをどう捉え、何を求めるのかーを投げかけられ、協働による発信を実現した。

○ 基調講演「都市コミュニティの魅力とネットワークの力-新しい文化はどこで生まれるのか-」

講師：野沢 慎司（本学社会学部教授）

○パネルディスカッション「港区の今、そしてこれから…都市コミュニティの魅力と課題」

パネリスト：クリエイティブ・アート実行委員会 事務局長 伊地知 裕子  
浄土宗魚藍寺 住職 山田 智之  
みなとNPOネットワーク 会長 渋谷 典昭  
絵本の読み聞かせ「きしゃぼっぼ」 伊佐見 節子

2002年度から2004年度まで、模索しながら活動してきました。

2005年度以降のミッションとして、“都市型ボランティア活動”とは、都市におけるさまざまなボランタリーな活動（個人や任意のグループによるボランティア活動も、NPOによる市民主体の諸事業も）と捉え、それらがより活発になるよう、活動者と連携・協働・応援しあい、共に発信し、ネットワークを創っていきたいと考えました。

そうしたネットワークをもとに、地域のさまざまな皆さんに、出会いの場や学びの場を創ることに取り組みたいと思います。私たちもまた、コミュニティ創りに関わるべく、新しい出会いを創出したいと考えます。

## ●2005年度7月 「コミュニティ創りを担うNPO

～地域に暮らすさまざまな人々とNPOとの出会いをめざして～ 開催

2004年度のNPO紹介企画の参加NPOより、「大学・NPO・地域」を結ぶ本企画を継続して行ってほしいという要望をもらった。それならば、新しい出会いを求めてコミュニティ創りに取り組む、取り組もうとしているNPOに、地域の皆さんや学生たちにPRしてもらおうと集まってもらった。参加NPOから、地元で活躍する方のお話を聞きたいという要望が寄せられ、町会・民生委員を担う方にNPOへの期待をお話いただいた。

○ミニ講演「地域住民とNPOが創る新しいコミュニティ～町会・PTA・民生委員の活動経験より～」

講師：古橋 義弘（港区民生・児童委員協議会三田地区会長）

○リレー活動紹介 参加NPO

特定非営利活動法人テクノシップ

みなと21：女の議会

特定非営利活動法人日本アロマセラピー活動サポートセンター クリエイティブ・アート実行委員会

認定特定非営利活動法人JHP・学校をつくる会 特定非営利活動法人日本ケナフ開発機構

特定非営利活動法人生活福祉ネットワーク 特定非営利活動法人日本ガーディアン・エンジェルス

○NPOとの準備講座「NPOを知らない層へ向けたプレゼンテーション」

講師：青木 将幸（青木将幸ファシリテーター事務所代表）

## ●2005年度3月本企画

「都心で子育てまっ最中！ママ・パパからの発信

～子育てをささえる地域創りとは～ 開催

2005年度相談・研究部門スタッフ・・・・・・・・・・・・・・・・

明治学院大学社会学部附属研究所

ソーシャルワーカー 平野幸子、森玲子

教員 主任：茨木尚子、和気康太、大瀧敦子